

## 日本ブランド発信事業 「日本の野球文化」

元プロ野球選手／スポーツコメンテーター  
外務省「日本ブランド発信事業」専門家  
古田敦也

外務省「日本ブランド発信事業」でキューバ、プエルトリコ、ドミニカ共和国に行ってきました。これは簡単に言うと日本の得意な分野の物や技術、または盛んなものを世界の国々にアピールし、お互いの理解、関係を深めていこうというものです。

これまでも色々な分野でやってきたようですが、今回は野球というテーマで中南米の国や地域と交流することになりました。これに伴って今回訪問した3地域では私の方から「日本野球の紹介」という演題で特色を紹介する講演を行いました。

主には日本の野球が少年期から規律や礼儀を重んじること、一定期まではケガを防止するべく独自の柔らかいボールを使用すること、身体のサイズの違いなどから戦術的に守備力や機動力野球を展開する傾向になることなど、多岐に渡って紹介させていただきました。

同時に各地域の野球事情を視察したり、意見交換したりすることでこれまで知らなかったことを発見することもできました。以下、各地域での活動をまとめさせていただきます。

### ●キューバ（2月1日～2月2日）

---

#### ■キューバでのスケジュール

##### ●2月1日

10:30 キューバにおける野球の発展に関する講演会（於：ラテンアメリカ球場内講演会場）

12:00 ラテンアメリカ球場視察

12:20 カクテル（於：ラテンアメリカ球場内「アドルフォ・フケ」）

14:00 マヌエル・ファハルド大学スポーツ応用化学センター視察

15:30 少年野球チームへの指導（於：フェリックス・エルムサ練習場）

##### ●2月2日

10:00 キューバ野球業界関係者との意見交換会（於：ラテンアメリカ球場内プロトコルハウス）

14:15 アンチ・ドーピングセンター視察

15:00 成人野球試合観戦（於：チャンガ・メデロス球場）

18:00 記者会見（於：ラテンアメリカ球場内「アドルフォ・フケ」）



キューバのハバナでは野球関係者を対象に日本野球を紹介する講演と意見交換会を行いました。また、少年野球教室にスポーツ科学センターやアンチ・ドーピングセンターの視察やその職員との意見交換会なども行い、非常にタイトなスケジュールで動きました。ここでの質問はやはり日本の規律に対する関心の深さが伺えました。

「どうして、あんなに礼儀正しいのか？」

「毎日あんなにたくさん練習するのか？」

といった質問が相次ぎました。やはり日本の規律の高さには関心を持ってもらえているのがわかりました。

その後、12歳以下を対象にした少年野球教室を行いました。ここでは選手たちを15分ごとに①投球、②捕手の捕球動作、③ティー打撃、④内野守備連携、⑤外野守備のセクションごとに分け、全選手が全ての練習ができるようにプログラムされていました。各セクションに専門のコーチを配置して非常に統制が取れていました。彼らが意見交換会で関心を示したように、規律に対する重要性を意識しているのを感じました。

私は日本でこの年代を指導することも多いのですが、比較するとやはり身体能力に優れ、サイズの大きい子が目立ちました。また利き腕と逆の打席に立たせ身体のバランスを意識させるなど、野球大国らしい進んだ一面も多く見られました。

実は今回、講演の中で日本では特に少年野球に親が深く介在して家族ぐるみで子供たちを応援する傾向があると紹介したのですが、ことこのことに関してはキューバでも引けを取らないことがわかりました。この野球教室の間も子供たちの両親がぎっしり詰めかけて、大きな声援を送っていました。

さて、講演会には懐かしい顔が。キューバの至宝と言われるオレステス・キンデランが来てくれました。国際大会ではおなじみの存在ですね。



折角なので野球以外でキューバの印象や出会ったキューバ人について感じたことを少しレポートします。

キューバといえば最近では日本でもニュースになったりしていますが、街にクラシックカーが走っていて旧市街の街並みや青い空に青い海がすごく綺麗でした。クラシックカーも観光用だけではなく普通にたくさん走っています。まるで巨大な映画のセットの中にいるような気分でした。



現地在住の日本人にそのことを聞くと、クラシックカーが多い理由はアメリカ資本が入ってきた頃の車を修理して乗るしか無いからなのだそうです。ご存知の通り、後に社会主義国になるわけなので、歴史を感じてしまいます。



彼らの平均月収が日本円で 3000~4000 円ほどだそうです。その上、車にかかる関税はなんと 800 パーセントというのですから、新しく車を買う事など到底できません。クラシックカーを存続して所有するにも燃費がかかって大変なのでしょうが、それも仕方がないことなのだそうです。

一方で教育や医療は無料だそうです。食事の配給もあります。そのかわりコンビニエンスストアはもちろんのこと、西側ではあって当然のスターバックスやマクドナルドもありません。おまけに電気があまり使えないので夜は繁華街と思いき街中でも暗いのです。

それでも治安は比較的いいそうです。最近になって観光客がどんどん増えて、スリなどもあるらしいのですがあまり正確な情報が公表されないためわからないとのことでした。

海沿いを車で走っていると、カモメの代わりにペリカンが飛んでいて驚きました。ヘミングウェイが愛したバーで愛飲したパパダイキリを飲むのが観光ルートだそうです。多くの観光客が飲んでいました。ただスケジュールがかなりタイトだったこともあり、残念ながら観光地に行けたのは 1 時間だけでした。

通信環境はよいとは言えず、電話も繋がりにくく、Wi-Fi があるのもほんの一部だけです。しかもお値段は 1 時間で 500 円ほどですから、物価を考えるとかなり高いです。

このように決して豊かでは無いのですが、おしなべてみんなが貧しいので、格差はなく、楽しく生きている雰囲気が伝わります。

不満を持つ人は多少いるのですが、そういう人はこの国を出て行って亡命してしまうらしいです。そして意外なことに亡命者にはさほど厳しい処分はなく、比較的寛容なのだとか。つまり国に残された家族への制裁などはあまりなく、海外で稼いだお金も家族へ送金できるらしいです。とはいえ、送金されたお金が全て家族に渡るわけではないようで、詳しくは分かりませんが、おそらくそういうこともあって、寛容なのでしょう。

すでにキューバ系アメリカ人という亡命者がおよそ 200 万人もいるらしいです。国の総人口 1200 万人足らずというからその比率は衝撃的です。

全く違うシステムの国で話を聞いていると生きる事や幸福感とかについて色々考えさせられました。とりあえずチェ・ゲバラの T シャツだけ買ってプエルトリコへ移動しました。



## ● プエルトリコ（2月3日～2月5日）

---

### ■ プエルトリコでのスケジュール

#### ● 2月4日

10:30 ヴォルマー スポーツアンドレクリエーション庁長官表敬

12:00 記者会見

13:00 意見交換 日本とプエルトリコの野球文化の違いについて（於：カガス・サイエンスアンドテクノロジーセンター）

#### ● 2月5日

10:30 意見交換 プエルトリコにおける野球選手育成施設視察及びキャッチャー指導（於：プエルトリコベースボールアカデミーアンドハイスクール）

13:00 グアイナボスポーツミュージアム 視察

キューバのハバナからプエルトリコのサンファンへ。直接行ければ2時間ほどなのですが、うまく接続する直行便が無いらしいのです。

なんと思い切り違う方向に南下してのパナマ経由で行くことになって、8時間ほどかかりました。多くの日本人はプエルトリコと発音するが正確にはプエルトリコです。プエルは「港」、リコはリッチで「豊か」という意味で豊かな港と言われる地域。今ではアメリカの一部で独立した国ではないのです。しかし、アメリカ大統領の選挙権は持っていないそうです。グアムと同じ感じです。

ここではベースボールアカデミーを視察しました。ベースボールアカデミーというと、日本では塾のようなイメージなのですが、これは完全に日本で言う高校として機能していて、一般教科の授業などもきっちりカリキュラムが組まれています。野球と勉強に打ち込む環境が整っていました。



聞けば、ここの総生徒数 250 人中なんと 50 人がキャッチャーなのだそうです。この数字は他の地域では考えられません。イヴァン・ロドリゲス、ホルヘ・ポサダ、ヤディアー・モリーナなど MLB を代表するキャッチャーがみんなこの地域出身ということで必然的にキャッチャーが子供たちからも大人気ということのようです。特筆すべきは、やはりみんな身体が大きい。ここでは具体的な技術指導を行いました。

プエルトリコで野球教室の前に現地のスポーツ庁長官を表敬訪問しました。直前に政権交代があったとかで長官は就任 1 ヶ月の 29 歳という若い人でした。「実は僕はミュージシャンなのだが兼任で長官もやっている」と、気さくな感じの人でした。ここでも野球少年たちとの懇談がありました。そのあと場所を移動して、現地の野球ファンや若い選手たちとホールで意見交換会。元プロ野球選手が多数、駆けつけてくれて盛り上がりました。私の隣はエドウィン・ロドリゲス代表監督。

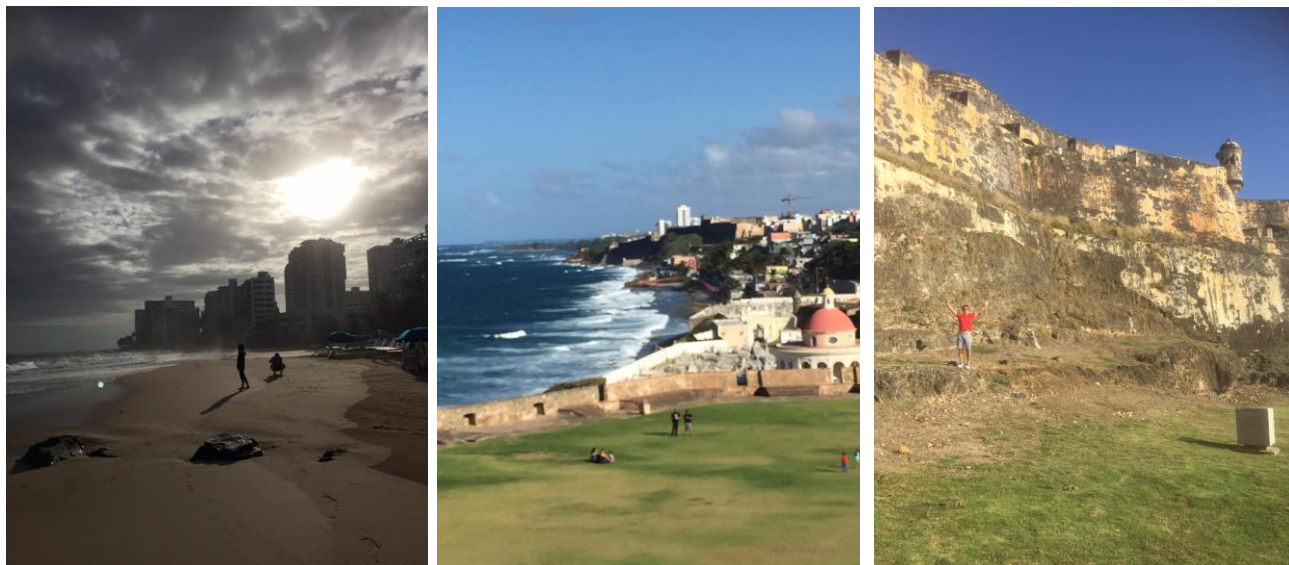


(写真：左から MLB で 10 年連続 30 本ホームランを打ったスーパースター、カルロス・デルガド、2008 年西武ライオンズが日本一になった時の外国人選手ボカチカ、そしてヤクルト、ジャイアンツで活躍した投手ディッキー・ゴンザレス)



プエルトリコのサンファンという街はハワイのワイキキを小さくした感じです。波は荒いですが綺麗なビーチやホテルがあってカジノまであります。治安も悪くありません。泊まったホテルから車で10分位のところに世界遺産エルモロ要塞と旧市街地があります。写真で大きさが伝わらないのが残念ですが、エルモロは200年以上かけてスペインが作り上げた巨大な要塞です。コロンブスがこの地を見つけてそのあと侵略し、海賊や外敵から守るために作ったらしいのですがそもそもスペインも外敵だったはずですよ。まあその頃の事はよくわかりませんが、歴史を感じる場所なのでプエルトリコに行ったら是非行ってほしいです。

という事でプエルトリコからドミニカ共和国、サントドミンゴへ。



## ●ドミニカ共和国（2月6日～2月9日）

---

### ■ドミニカ共和国でのスケジュール

#### ●2月6日

15:30 ドミニカ野球連盟（FEDOBE）会長表敬

#### ●2月7日

10:00 ドミニカ・オリンピック委員会委員長表敬

11:00 スポーツ大臣表敬

11:30 記者会見（於：スポーツ省）

14:30 野球技術指導（於：オリンピック・センター内の球場）

#### ●2月8日

9:30 少年野球チームの練習視察

14:00 広島東洋カープ・アカデミー視察

19:30 講演 日本の野球，ワールドベースボール・クラシック（WBC）（於：ドミニカ・スポーツ殿堂講堂）





ドミニカ共和国サントドミンゴでスポーツ大臣やオリンピック委員長を表敬訪問したあとベースボールクリニックを行いました。

対象が15歳から18歳ということで日本の高校生くらいだったのですが、レベルは高かったです。足は速いし、肩は強いし、パワーは言うまでもない強さでした。そんな彼らに技術的な指導をしたのですが私より体が大きい人ばかり。あらかじめ想定していたとはいえ、予想以上で驚きました。

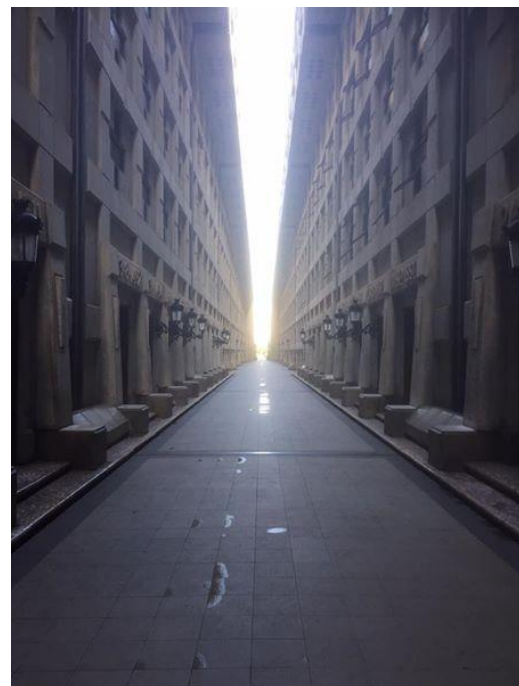
MLB（メジャーリーグベースボール）の全球団がこのドミニカにアカデミーを持っていて素質のある選手を見抜くとすぐに契約するのだそう。ここでもベースボールアカデミーは塾のようなものではなく、そのまま学校のようなもので野球を半日練習してからそこで道徳や英語を授業で学ばしい。

貧富の激しい国だけにアカデミーに入ってひたすら夢のMLBを目指す。これぞまさにハングリー精神、強いはずです。



首都サントドミンゴは治安がいいとは言いにくかったです。現地の日本人からもふらっと外を出歩くのはやめた方がいいと言われました。とにかくひったくりが多いのだそうです。それでも、その人が言うには、「さらに厳しいところに比べたらまだ天国ですよ」と。何でも比較の問題だな、と思いました。

あと、コロンブスが「自分の墓はサントドミンゴに」と遺言に残したとかで彼の巨大な墓？が市内にあります。棺に1492と書いてあります。教科書でしか学んだ事がないものが目の前にあるという不思議な感覚を味わいました。



【参考リンク】

外務省「日本ブランド発信事業」 [http://www.mofa.go.jp/mofaj/p\\_pd/pds/page22\\_001100.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html)